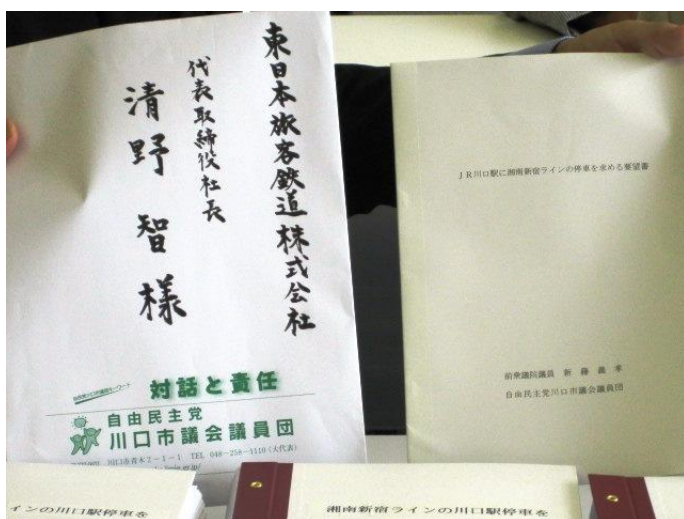
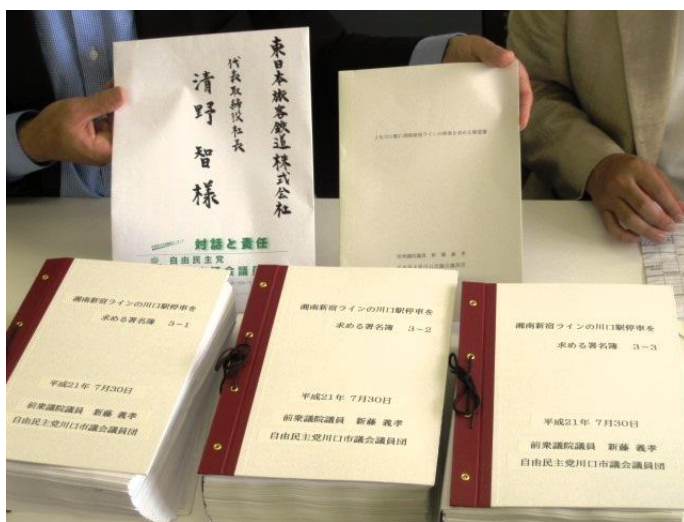


J R川口駅に湘南新宿ラインの停車を求める要望書



前衆議院議員 新藤 義孝

自由民主党川口市議会議員団

東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 清野 智 様

「J R 川口駅に湘南新宿ラインの停車を求める要望書」

我々、前衆議院議員 新藤義孝及び埼玉県川口市議会 自由民主党
川口市議会議員団は、J R 川口駅に湘南新宿ラインの停車を求める
べく、貴社に要望をするものであります。



J R 川口駅周辺は、長年にわたる大規模な市街地再開発等の結果、
高度な都市機能と商業集積を有するに至りました。この結果、駅周
辺においては民間の大規模な住宅開発等も進み、昨年度の同駅の乗
降客数は埼玉県下で大宮駅に次いで第二となる 16 万人／日を突破し、
一層の増加傾向を示しております。



しかしながら、J R川口駅の鉄道輸送能力は京浜東北線一本という極めて脆弱な機能にとどまっており、ラッシュ時の混雑・積み残しが、近年更に顕著になっております。

とりわけ、頻発する人身事故等による列車の遅延・運休時には、代替路線がない現状においては、入場改札制限が余儀なくされ、おびただしい数の利用者が、駅舎内はおろか駅前広場デッキにまであふれ、目を覆うばかりの混乱を来たしております。特に、路線の長距離化・ネットワーク化により、遠隔地も含めた事故による影響が頻繁に市民の足を奪い、その経済的損失もさることながら、同様の光景が何度も繰り返されながらも、それに対していつになっても有効な手立てが打たれないことに、強い憤りを覚える市民も少なくありません。

加えて、川口駅周辺地域における再開発の後、本市では埼玉県のご協力のもと、西川口駅西口周辺における重点的な活性化に取り組ん

でいるところであり、同地域における再開発は、そのポテンシャルの高さともあいまって、西川口駅からの利用者増と川口駅における更なる交通負荷の増嵩が予想されるところです。

本市においては、かねてよりこのような状況に至ることを危惧し、貴社に対して、20年以上にわたり中距離電車の停車についての要望を行って参りました。さらに、単なる要望にとどまらず、貴社における川口駅舎の改修・建替え時期に合わせての実現を図るべく、川口駅西側に中距離電車の停車スペースとして公園・緑地帯の形で公共用地を確保し、本市として速やかな対応ができるように、十全の準備を行ってきたものであります。

また、工事内容についても、川口駅の最も西側を走行する湘南新宿ラインの停車の場合は、一線の整備と切替え、地上駅ホームの建設を鉄道輸送を妨げることなく施工することが可能であり、無理のないシンプルな計画と言えます。



今般、J R川口駅の建替えにおける都市計画の変更等についての調整が始められているところではありますが、これだけ大規模な輸送量を有するターミナルにあっては、まずは、その輸送力の増強と、代替性（リダンダンシー）を保持すべく、利用者の安全・安心の確保を最優先の課題として取組むことが、公共輸送を担う鉄道事業者としての基本的姿勢であるものと思料するところです。

このことは、京浜東北線が上野・東京方面へと向かうことに対して、湘南新宿ラインは池袋・新宿・渋谷方面へと向かうことから、同駅舎の拠点性が高まり、貴社の想定されている商業施設の集客力の向上にも資するほか、本市からの埼京線の利用者も多いものと認識するなか、同路線の一定の混雑緩和にも資するものと想定するものです。

そして、過日の平成21年1月20日に要望をさせて頂いて以来、

川口駅前デッキ上で湘南新宿ラインの川口駅停車を求める署名活動を実施したところ、現在までに24,258人の川口駅利用者からの署名が集まったところであります。(別紙をご参照下さい)



以上の理由から、川口駅舎の建替え・改修にあたっては、湘南新宿ラインの川口駅停車について特段の配慮を賜りますよう、重ねて強く要望をいたします。

平成21年7月30日

前衆議院議員

新藤義孝

埼玉県 川口市議会

自由民主党川口市議会議員団 団長 立石泰広